

科 目 名

歴史学と課題Ⅰ History Ⅰ

1年 前期 2単位 選択

佐藤伸二

概 要

21世紀は、一方での国際化、他方での分権化の時代である。地球規模で考え、地域に根ざして活動する事が期待されている。自国の歴史を知り、他国の歴史を知ることが国際人の必須の条件である。

現在の目で過去を見、過去を通じて現在を知る、これが歴史を学ぶことである。歴史像は時代とともに変化する。これは、研究の進展だけでなく、社会の変化とともに過去の事実の持つ意味が変わるからである。

本講では日本の歴史を地域や社会集団ごとに、多様な生活と文化を具体的に描き、国際社会の中でとらえる。このことによって、ややもすれば歴史に対して無関心になりがちな理系の学生諸君に、日本の歴史への関心呼び起こし、時代を切り開いた人々の努力とエネルギーを説く。

目 標

- 1) 古代から中世に至る歴史について理解を深める。
- 2) 東アジア世界と日本の交流を考えさせる。

授業計画

第1回 日本人と日本文化の起源

後期旧石器時代に、日本列島に住むようになった人々が、どのようにして日本的な文化を形成して行ったかを取り上げる。

第2回 古代国家の成立と冊封体制

日本における古代国家の成立を、中国文献の記述や、古墳によっても証明できることを示す。倭の五王の朝貢など古代アジアの国際関係についても取り上げる。

第3回 大王から天皇へ

大和朝廷では大王が関東から九州にいたる地域の統一、倭を改めて日本と称すること、唐による天皇の称号の公認、律令制の採用、奈良・平安京の造営と貴族政治の展開を取り上げる。

第4回 東アジアの変動と渡来人

動乱の東アジアから三期にわたる渡来人の動向と役割、大和朝廷の外交と周辺諸国・諸地方の関連、東アジアからの文化の移入を取り上げる。

第5回 律令政治の展開と蝦夷・隼人

律令政治の展開、蝦夷と隼人の平定による統治地域の拡大、古代国家の成熟をみる。

第6回 古代女性の諸相

古代女性の多様な分野での活躍について取り上げる。

第7回 小テストと講評

今まで学んだことを整理させ、基本的な用語を確認させる。

第8回 貴族政治から武家政権へ

権門勢家の権力独占と地方政治の変質を取り上げ、武士の誕生、平氏政権、鎌倉幕府の成立、将軍と御家人、領主と百姓など封建制的諸関係を学ぶ。

第9回 中世農民の成立と荘園公領制

公地公民制とその変質、荘園の拡大、国司を訴える百姓、古代の公民から中世の百姓へ、百姓の変質を学ぶ。

第10回 中世の天皇と将軍

鎌倉幕府以来の天皇と将軍の権力について学ぶ。保元・平治の乱、承久の変、権武の中興、南北朝合一、日本国王源義満を取り上げる。

第11回 中世の政治と社会

守護大名による領地支配、将軍と戦国大名、戦国大名の出自、下克上とは何か、古代的権威の失墜を学ぶ。

第12回 中世の国際関係

平氏と日宋貿易、蒙古襲来、日明貿易と倭寇、秀吉の朝鮮出兵を取り上げる。琉球王国の盛衰についても学ぶ。

第13回 寺院と神社

飛鳥仏教、南都六宗七大寺、比叡山延暦寺と高野山金剛峰寺、鎌倉新仏教を取り上げる。熊野信仰・五山の制についても学ぶ。

第14回 小テストと講評

今まで学んだことを整理させ、基本的な用語を確認させる。

第15回 定期試験

授業方法

中学・高校で学んだことを随時質問をしながら講義によって授業を進め、テキストの関連部分を音読させる。

学習到達度の評価

- ① 授業中に教員より質問し、理解度を確認する。
- ② 授業に関連したことについて、レポートを書かせて発展学習を促す。
- ③ 2回の小テストと学生からの質問で到達度を確認する。

評価方法

定期試験（80点）・小テスト（10点）・レポート（10点）の成績によって判定する。

教 材

テキスト：荒木敏夫・保坂 智・加藤哲郎『日本史のエッセンス』有斐閣（1997）